

Hermann Gottschewski

放送大学文教学習センターの面接授業『二十世紀初頭のピアノ演奏』

第一回目：導入：録音技術の発展と 20 世紀初頭のピアノ録音の種類

### なぜこの授業で「二十世紀初頭」を取り上げるのか

「二十世紀初頭」とは、この授業では、1901 年から第一次世界大戦までの時代を指す。ピアノの録音が本格的に始まってからの約十年間を含む時代である。以下の 2 つの理由によりこの時代を取り上げることにした。

① ピアノ音楽文化の「転換期」であるから。その前後を比較すると、次のような図式が浮かび上がってくる。

#### 19 世紀以前

ピアノ音楽文化の中心はヨーロッパ  
「ピアノ」という楽器が発展途上である  
同時代の作品が多く演奏される  
大多数のピアニストは作曲もする  
編曲作品が多く演奏される  
オリジナル作品でも、自由に編曲しながら演奏する習慣があった  
楽譜は、著名な演奏者による「解釈版」が好まれる  
ピアノコンクールはほとんど存在しない  
ピアノ音楽文化の現状が楽譜、教則本および伝説のみによって後世に伝わる

#### 20 世紀以後

北南アメリカ・アジア等にも広がる  
「現代のピアノ」はほとんど発展しない  
それ以前の時代の作品が多く演奏される  
作曲するピアニストは少数派  
オリジナル作品が多く演奏される  
オリジナル作品は可能な限り作曲家が作曲した通りに演奏される  
楽譜は、文献研究に基づいて作られた「原典版」が好まれる  
ピアノコンクールが重要な役割を果たす  
ピアノ音楽が音声と映像資料によっても後世に伝わる

この転換期には演奏法も大きく変わったと考えられる。また、録音文化にまだほとんど影響されていない演奏が多く録音されたのはこの時代のみだと考えられる。

② 今日のピアノ演奏文化で中心になっている「遠い過去」の作曲家たちの多くはこの転換期では「同時代」、または「近い過去」の人であり、その作曲家たちがどのような演奏をイメージしていたのかが、二十世紀初頭の録音からある程度推測することができる。場合によっては作曲家自身の演奏、あるいはその作曲家の弟子たち、作曲家が模範的だと認めていた演奏者たちなどの演奏の録音が残っている。したがって作曲家の意図に「忠実な」演奏を目指す場合でも、この時代の録音から重要なヒントを得ることができる。

## 今日もっとも人気のあるピアノ作曲家 20 名

<u>日本で</u>	<u>ドイツで</u>	<u>フランスで</u>	<u>アメリカ合衆国で</u>
ショパン (1810-1849)	バッハ	バッハ	バッハ
ベートーヴェン (1770-1827)	ベートーヴェン	ベートーヴェン	ベートーヴェン
リスト (1811-1886)	ブラームス	モーツァルト	ショパン
ラフマニノフ (1873-1943)	シューマン	ショパン	モーツァルト
モーツァルト (1756-1791)	ショパン	シューベルト	シューベルト
ドビュッシー (1862-1918)	モーツァルト	リスト	リスト
シューマン (1810-1856)	シューベルト	シューマン	シューマン
バッハ (1685-1750)	リスト	ブラームス	ブラームス
スクリャービン (1872-1915)	ドビュッシー	ドビュッシー	ドビュッシー
ラヴェル (1875-1937)	ラヴェル	ラヴェル	ラヴェル
プロコフィエフ (1891-1953)	ラフマニノフ	サン＝サーンス	ラフマニノフ
チャイコフスキー (1840-1893)	スクリャービン	フォーレ	スクリャービン
シューベルト (1797-1828)	プロコフィエフ	メシアン	プロコフィエフ
メンデルスゾーン (1809-1847)	ショスタコーヴィチ	プーランク	ショスタコーヴィチ
ブラームス (1833-1897)	バルトーク	スクリャービン	バルトーク
カプースチン (1937-2020)	メンデルスゾーン	ラフマニノフ	サティ
グリーグ (1843-1907)	ハイドン	プロコフィエフ	プーランク
ガーシュウィン (1898-1937)	アルベニス	ショスタコーヴィチ	サン＝サーンス
シベリウス (1865-1957)	グラナドス	バルトーク	フォーレ
ヤナーチェク (1854-1928)	カプースチン	アルベニス	メシアン

### 4 国共通の作曲家 13 名を二十世紀初頭の立場から整理すると以下のようになる

#### 「遠い過去の人」

バッハ (1685-1750)

#### 「近い過去の人」

モーツァルト (1756-1791)

ベートーヴェン (1770-1827)

シューベルト (1797-1828)

#### 「生の演奏を聴いた人が居る」

ショパン (1810-1849)

シューマン (1810-1856)

#### 「記憶に新しい人」

リスト (1811-1886)

ブラームス (1833-1897)

#### 「生きていて、録音も存在する」

スクリャービン (1872-1915)

ドビュッシー (1862-1918)

#### 「若い世代で、以後の時代でも活躍を続ける」

ラヴェル (1875-1937)

ラフマニノフ (1873-1943)

また、13 人の中で活躍をまだ始めていなかった人はプロコシエフ (1891-1953) のみである。

### ピアノ録音の種類

- ・ 録音自体は 1877 年にトーマス・エジソンについて発明されたと言われるが(異説もある)、エジソンが発明した蝋管録音はピアノ録音の歴史の中であまり重要だと思われない。
- ・ 円盤レコード (いわゆる「SP レコード」) は 19 世紀末に歌が中心だが、20 世紀に入ってまもなくピアノ録音も現れる。ただし、それが古いほど録音時間が短く、音質も良くない。
- ・ この時代特有の録音媒体としてピアノロールがある。ピアノロールでは鍵盤とペダルの動きが記録され、再生される。生演奏の記録は 1904 年から始まる。
- ・ 録画 (映画) もあるが、音声を同時に記録できなかったので音楽の録画が少ない。